



警告のニューズレター「角笛」

発行日:2015年12月発行(第68号)

発行:警告の角笛出版

価格:フリーペーパー

角笛 HP:<http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

〔目次〕

◎巻頭メッセージ:「エジプトと呼ばれる都」 エレミヤ

◎証:『サルデス(プロテスタント)の教会』は御国が危ない?!(2) E3

◎お知らせコーナー:「本の紹介」「日曜礼拝&HPのご案内」

[巻頭メッセージ]

「エジプトと呼ばれる都」

by エレミヤ

今回は「エジプトと呼ばれる都」としてこのことを見ていきたいと思えます。

<終末の教会はエジプト化する>

黙示録は終末の日にエジプトと呼ばれる都が出現することを預言します。以下の通りです。

[聖書箇所]ヨハネの黙示録 11:8

11:8 彼らの死体は、霊的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれる大きな都の大通りにさらされる。彼らの主もその都で十字架につけられたのである。

この都は何か?と言うと、私たちの今の理解では、終末の日の背教化した教会をあらわすと思えています。かつての日、旧約時代の終わりに神の民の都であるエルサレムで、キリストは十字架で殺されました。同じことが終末の背教の教会で再現するように思えるのです。

主の初降臨の日に起きたことは、以下のよ

うなことでした。

- ①旧約時代の終わりに神の民が背教し、
- ②エリヤの再来であるバプテスマのヨハネを殺し
- ③メシヤ(油塗られた方) イエス・キリストを十字架で殺した。

同じく主の再臨の日に同じパターンが繰り返されるのでしょ

- ①新約の神の民が背教し、
- ②エリヤの再来、モーセの再来である2人の預言者を殺し、
- ③油塗られた方、キリストの霊である聖霊を再び十字架につける

<エジプトの意味合いは何か?>

この町、背教の教会は、「ソドムやエジプトと呼ばれる都」と語られています。「ソドム」の意味合いは以前見ましたように、「同性愛」と関係があります。そして、近年の教会は以前と異なり、同性愛を受入れつつあります。同性愛者を公言する牧師が存在する教団もあります。たしかに教会のソドム化は進んでいる、と言えます。この「ソドムと言われる都」ということは、今の教会で成就しつつあるのです。

エジプトと呼ばれる都 エレミヤ

さて、それでは、「エジプト」ということばの意味合いは何でしょうか？なぜ、黙示録の中で、背教の教会は「エジプト」と呼ばれるのでしょうか？このことを考えてみましょう。聖書の中で「エジプト」に関してもっとも詳しく書いてある書は、出エジプト記です。

出エジプト記の中で、神はエジプトを「10の災い」で打ちます。その災いの多くはたとえの理解としては「悪霊」に関する事柄だと思えます。このことを見てみましょう。

【ナイルの水が血に変わる】

〔聖書箇所〕出エジプト記 7:17,18

7:17 主はこう仰せられます。『あなたは、次のことによって、わたしが主であることを知るようになる。』ご覧ください。私は手に持っている杖でナイルの水を打ちます。水は血に変わり、
7:18 ナイルの魚は死に、ナイルは臭くなり、エジプト人はナイルの水をもう飲むことを忌みきらうようになります。』

「水」は「聖霊」のたとえです。「聖霊」は「命の水」です。しかし、この日、エジプトに災いが下り、水が血に変わり、その水を飲むことが出来なくなりました。この血は明らかに「悪霊」のたとえです。聖霊の働きが悪霊のものに変わったことを示すと理解できます。

【かえる】

〔聖書箇所〕出エジプト記8:1-3

8:1 主はモーセに仰せられた。「パロのもとに行つて言え。主はこう仰せられます。『わたしの民を行かせ、彼らにわたしに仕えさせるようにせよ。
8:2 もし、あなたが行かせることを拒むなら、見よ、わたしは、あなたの全領土を、かえるをもって、打つ。
8:3 かえるがナイルに群がり、上って来て、あなたの家にはいる。あなたの寝室に、あなたの寝台に、あなたの家臣の家に、あなたの民の中に、あなたのかまどに、あなたのこね鉢に、はいる。

「かえる」の意味合いは何でしょう？黙示録では、「かえる」のことが、「汚れた霊」と共に描かれています。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 16:13

16:13 また、私は竜の口と、獣の口と、にせ預言者の口とから、かえるのような汚れた霊どもが三つ出て来るのを見た。

ですので、このナイルから出た「かえる」も、「汚れた霊」を指すたとえだと理解出来ます。

【あぶ（KJV訳:蠅）】

〔聖書箇所〕出エジプト記8:21

8:21 もしもあなたがわたしの民を行かせないなら、さあ、わたしは、あぶの群れを、あなたとあなたの家臣とあなたの民の中に、またあなたの家の中に放つ。エジプトの家々も、彼らがいる土地も、あぶの群れで満ちる。



過ぎ越しの血は聖霊をあらわす

新改訳では、「あぶ」と書かれていますが、KJV訳では、「蠅」と書かれています。悪霊のベルゼブルには、「蠅の王」という意味合いがありますので、「蠅」も「悪霊」をたとえるたとえだと理解出来ます。

このように、エジプトに起きた災いは悪霊的なものだったのです。

<しるしと不思議>

これらのエジプトへの災いをどう理解すべきなのでしょう？今の教会とこれらの災いとは、どう関係するのでしょうか？それを

エジプトと呼ばれる都 エレミヤ

理解するのに、聖書を書かれた主はヒントを与えてくださっているように思えます。それは、以下の「**しるしと不思議**」“signs and wonders”ということばです。

〔聖書箇所〕出エジプト記 7: 3

7:3 わたしはパロの心をかたくなにし、わたしの**しるしと不思議**をエジプトの地で多く行なおう。

〔聖書箇所〕出エジプト記 10:1,2

10:1 主はモーセに仰せられた。「パロのところに
行け。わたしは彼とその家臣たちを強情にした。それは、わたしがわたしのこれらの**しるし**を彼らの中に、行なうためであり、
10:2 わたしがエジプトに対して力を働かせたあのことを、また、わたしが彼らの中で行なった**しるし**を、あなたが息子や孫に語って聞かせるためであり、わたしが主であることを、あなたがたが知るためである。」

〔聖書箇所〕詩篇 135:9

135:9 エジプトよ。おまえのまっただ中に、主は**しるしと奇蹟**(KJV訳:不思議)を送られた。パロとそのすべてのしもべらに。

このように、神はエジプトに起きる災いに関して「**しるしと不思議**」ということばを使っています。この「**しるしと不思議**」ということばは、ピーター・ワグナーの「聖霊の第三の波のリバイバル」の中で何度も強調されたことばです。

すなわち、ピーター・ワグナー、ベニー・ヒン、ビル・ハモンなどが提唱する「リバイバル運動」こそ、エジプトの「**しるしと不思議**」であり、このリバイバルの霊は聖霊ならぬ、「悪霊の災い」である、このことが理解出来るのです。

＜「贖い」を失う＞

これらのリバイバルの中には、癒しも奇蹟もまた、預言もさらに幻や素晴らしい啓示まであります。たとえ、悪霊であろうとも、しるしや奇蹟があるなら問題無いではないか？

そんな意見があるかも知れません。いいえ、大きな問題があります。

聖書はこのリバイバルを受け入れ、「**しるしと不思議**」を追い求めていく人は「贖い」を失うことを預言します。以下のことばを見てください。

〔聖書箇所〕出エジプト記 12:12,13

12:12 その夜、わたしはエジプトの地を巡り、人をはじめ、家畜に至るまで、エジプトの地のすべての初子を打ち、また、エジプトのすべての神々にさばきを下そう。わたしは主である。
12:13 あなたがたのいる家々の血は、あなたがたのために**しるし**となる。わたしはその血を見て、あなたがたの所を通り越そう。わたしがエジプトの地を打つとき、あなたがたには滅びのわざわいは起こらない。

これは、「過ぎ越しの祭り」に関する記述です。その日、主の使いが「**わざわい**」を持って来ても、イスラエル之家に「子羊の血」が塗ってあるので、その家から「**わざわい**」が過ぎ越します。しかし、エジプトの家には「子羊の血」が塗ってないため、主の使いが入り、初子が打たれて殺されてしまったのです。この「子羊の血」は、明らかに「キリストの贖いの血」を象徴したものです。そして、エジプトの家には血が塗られない、すなわち「贖い」が取り去られることを見るのです。ピーター・ワグナーたちのリバイバルの問題、エジプトのリバイバルの問題は、すなわち、それは、このリバイバルに参加する人々からは「贖いの血が取り去られる」という問題なのです。

＜「贖い」ということ＞

改めて、「贖い」ということを考えてみましょう。主はかつて聖餐式に関してこう言われました。

エジプトと呼ばれる都 エレミヤ

〔聖書箇所〕I コリント人への手紙 11:25

11:25 夕食の後、杯をも同じようにして言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」

この聖餐式の「ぶどう酒」は「聖霊」の象徴であり、それは、また、「キリストの血」なのです。すなわち、悪霊のリバイバルに狂奔し、その霊を追いかけていく者は、結果として聖霊を追い出し、そして、「贖いの血」を失うようになるのです。それが、エジプトの過ぎ越しの箇所が語ることなのです。

＜ラオデキヤの教会＞

悪霊のリバイバルに狂奔し、結果聖霊を追い出す教会はラオデキヤとして、黙示録の中に預言されています。「ラオデキヤ」の意味合いは「民の刑罰」という意味合いであり、聖霊を追い出すこの教会が「贖い」を失い、「刑罰」に入ることが暗示されています。以下のラオデキヤへのことばを見ましょう。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 3:17

3:17 あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、乏しいものは何もないと言って、実は自分がみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸の者であることを知らない。

この教会は驚くべき誤解をしている教会です。神の目には、「みじめで、哀れで、貧しい」のに、本人は「富んでいる、豊かになった、乏しいものは何もない」と言っているのです。

大変なギャップです。なぜ、この教会はこのような誤解をするようになったのでしょうか？その理由は彼らが「聖霊」を追い出し、悪霊のリバイバルに狂奔するからです。たしかに彼らは、「富んだ、豊かになった」と思えるほどの霊の賜物や奇蹟、癒し、不思議を持っていますが、それは、聖霊からのものではありません。それで、「みじめで、哀れで…」と神に呼ばれているのです。なぜ、この教会が聖霊

を追い出していると断定出来るのか？以下のように書いてあります。

〔聖書箇所〕ヨハネの黙示録 3:20

3:20 見よ。わたしは、戸の外に立ってたたき。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいって、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。

この教会においては、「聖霊となられた主」は、外に追い出されているのです。しかし、彼らはそれに気付かず、悪霊を聖霊と思い込み、そのしるしや不思議、奇蹟、預言、癒し、啓示などを追い求めているのです。そして、聖霊を追い出し、「贖い」を失った彼らの行き着く先はラオデキヤ、すなわち、「民への刑罰」なのです。いかに悪霊リバイバルを追い求め、聖霊を追い出し、「贖い」を失うことが、恐ろしい結果に結び付くか理解出来るでしょうか。

＜愚かな娘＞

終末の神の民が背教し、聖霊を追い出し、悪霊を受け入れることは、何度も聖書に語られています。そのもうひとつの例は、「愚かな娘」の箇所です。なぜ、あの婚礼の日に愚かな娘たちは花婿なるキリストに受け入れられなかったのか？その理由として聖書はたったひとつのことを述べます。

〔聖書箇所〕マタイの福音書 25:3

25:3 愚かな娘たちは、ともしびは持っていたが、油を用意しておかなかった。

すなわち、彼女たちは「油」である「聖霊」を持っていなかったのです。彼女たちは、花婿であるキリストとの婚姻を望んでいたのですから、当然クリスチャンだったはずですが、なぜ、クリスチャンであるはずの娘が油、聖霊を持っていなかったのか？その理由は、恐らく彼女たちは奇蹟やしるしや癒しや啓示に騙され、悪霊を聖霊と思い込んでいたからです。悪霊の惑わしが巧妙なので、彼女たちは、

エジプトと呼ばれる都 エレミヤ

最後の日、主の再臨の日まで、自分たちが聖霊を失い、「贖い」を失っていることを気付かなかったのです。

<「主よ、主よ」と言う者>

この件に関連してもう一つの例を見てみましょう。それは、以下の『**主よ、主よ。**』という記述です。

〔聖書箇所〕マタイの福音書7:21-23

7:21 わたしに向かって、『**主よ、主よ。**』と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行なう者がはいるのです。

7:22 その日には、**大ぜいの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行なったではありませんか。』**

7:23 しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『**わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。**』

この箇所では、キリストの名によって、『**預言をし、悪霊を追い出し、奇蹟をたくさん行なった**』にもかかわらず、なおかつキリストにその日、『**わたしはあなたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。**』と言われてしまう人がいることが語られています。何とも、驚くべきことです。一体全体どうしてそんなことになってしまうのでしょうか？

「**キリストの名で預言する**」とはすごいことだと思います。そして、「**悪霊を追い出す**」のも、そうそう出来ないわざです。さらに「**奇蹟をたくさん行う**」など、並みのクリスチャンでは出来ない、これはすごい器、すごい働き人だと思われるのです。どうしてそんな人たちがその日キリストに知らない、などと言われるのでしょうか？

さて、結論を言うなら、この箇所の問題点も上述のラオデキヤの問題と同じものなのです。すなわち、「悪霊」を持ち、「悪霊のし

るしと不思議」は持っているが、肝心の「聖霊は追い出している」という問題なのです。

上記、『**主よ、主よ。**』と言う人々はたしかにキリストの名により預言をし、悪霊を追い出し、奇蹟を沢山行なったのですが、しかし、残念ながら、その霊はキリストの霊、聖霊ではなく、むしろ「エジプトのしるし、不思議」であり、「悪霊による奇蹟」だったので

そうであるがゆえに、彼らに対して、キリストは、「**わたしはあなたがたを全然知らない。**」と言われたのです。キリストとベリアルとは何の関係もなく、「聖霊」と「悪霊」とはまったく無関係なので、主は「**知らない。**」と言われたのです。そして、この「**わたしはあなたがたを全然知らない。**」とのことばは、前述の「愚かな娘」に言われたことばと全く同じことばです。愚かな娘の問題点が「油、聖霊」を持っていなかったことであるように、この『**主よ、主よ。**』と言う人々の問題点も、彼らが「油、聖霊」を持っていなかった、ということに尽きるのです。

結論として、「アメリカ由来のリバイバル」は、まさに「エジプトの悪霊のしるし」です。このリバイバルを受け入れることは「贖いを失う」ことに通じることを知しましょう。



愚かな娘は油、聖霊を失っていた

『サルデス(プロテスタント)の教会』は御国が危ない?! (2) E3

2013年7月号で、「サルデス(プロテスタント)の教会」に関して話をさせていただいたことがあり、また、その時から大分時間が経ちましたが…つい最近の午前の礼拝のメッセージにおきまして、ヨハネの黙示録からエレミヤ牧師がとても大事なポイントを語られていましたので、そのことを紹介させていただきたいと思います。また、今回の内容も「永遠の命」を得るためのとても大事なポイントとなるのでは?そして特にプロテスタントのクリスチャンにはぜひ、このことを知っていただきたい…と思いましたので、この度上記のテーマに沿ってお話させていただくこととなりました。よろしければお読みいただけると幸いです。以下、エレミヤ牧師によるメッセージです。聖書箇所はヨハネの黙示録3章です。

3:1 また、サルデスにある教会の御使いに書き送れ。『神の七つの御霊、および七つの星を持つ方がこう言われる。「わたしは、あなたの行ないを知っている。あなたは、生きてるとされているが、実は死んでいる。」

本日は、「サルデス」に関しての学びをしていきたいと思えます。「サルデス」とはどういう意味か?と言うと、「赤いもの」という意味です。黙示録をはじめ、聖書の他の箇所に「赤めのう」ということばが書かれていますが、それは「サルデイン」とも呼ばれていて、ここでもまさしく「赤」ということばに関係することを言われています。

そして「サルデス」(赤いもの)は、ヤコブの兄「エサウ」に通じます。かつてエサウが獵から疲れて帰って来たときに、弟ヤコブに「どうか、その赤いのを、その赤い物を私に食べさせてくれ。私は飢え疲れているのだから。」(創世記25章30節)と言いました。そして、そのことばに続いて、「それゆえ、彼の名はエドム(赤い、赤土)と呼ばれた。」(創世記25章30節)ということが書かれています。また、弟ヤコブに「長子の特権(クリスチャンが受け継ぐべき天の御国に入るための特権)」を売り払ったことから、「エサウ」という名の意味合いは、「俗悪」という意味にとらえることが出来ます。そしてまさしくそれは、「サルデス」のことを言われています。

つまり、「サルデス」(赤いもの)は「エサウ」に通じます。そしてレムナントキリスト教会もそうですが、多くの教会やクリスチャンは「サルデス」のことを「プロテスタント」だという風に理解しています。ちなみに黙示録には7つの教会が登場しますが、どの教会もそれぞれのどこかの時代に属します。そして、「サルデスの教会」とは、まさしく終末の「プロテスタント教会」ではないか?と思います。

そして、世の終わりや再臨の時に、「サルデス(プロテスタント)の教会」はどうなるのか?と言うと、それはヤコブの兄、エサウのことから理解出来ますように、最後に「長子の権利を失う」可能性のあることを語ります。しかもこれは非常に不吉な預言であります。なぜなら、「長子の権利」とは、「天の御国を受け継

ぐ権利」のことだからです。そしてこのことは、同じ黙示録に書かれていますように、右の手か額に獣の刻印を受けることに通じるのでは?と思われます。「また、小さい者にも、大きい者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々にその右の手かその額かに、刻印を受けさせた。」(ヨハネの黙示録13章16節)とある通りです。さらにそのことは、「私がきょう、あなたに命じるこれらのことばを、あなたの心に刻みなさい。これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、これを唱えなさい。これをしるしとしてあなたの手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい。」(申命記6章6~8節)のことばにも通じます。

さらに今回のみことばで…「あなたは、生きてるとされているが、実は死んでいる。」ということが言われています。「生きている」の「生きる」とは、「永遠の命」に通じることであります。けれども、「実は死んでいる。」とあります。ちなみに聖書で言う「死」とは、「肉体の死」の他に「霊的な死」、すなわち「罪」のこととも言われています。ゆえに「死んでいる。」とは、「命(永遠の命)に至っていない。」ということをお話しております。このようなことを申し上げるのもなんですが…神さまの視点において、「サルデス(プロテスタント)の教会は、名目に過ぎない。」ということではないかと思えます。ですから、「命(永遠の命)の道」を歩むことが出来るように祈り求めていきたいと思えます。そして、もし私たちが「罪」を持ち続けたまま歩んでしまうとどうなってしまうのか?について、よろしければ少し見てみましょう。

【聖書箇所】ヨハネの福音書 8:34-36

8:34 イエスは彼らに答えられた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。罪を行なっている者はみな、罪の奴隷です。8:35 奴隷はいつまでも家にいるのではありません。しかし、息子はいつまでもいます。8:36 ですから、もし子があなたがたを自由にするなら、あなたがたはほんとうに自由なのです。」

こちらの箇所において…もし、私たちがクリスチャン生活の中で「奴隷(罪の奴隷)状態」になっていくというときに、「家(天の御国)」に入れない可能性があります。けれども真の神の子として…つまり、「罪の奴隷状態」から自由になって歩むなら御国を相続します。ちなみに「何が罪か?」は、聖霊さまが語ってくださいます。そうです。「罪」を行い続けているならそこから脱して行かないかぎり、天の御国を受け継げなくなってしまうでしょう。ですからもし、「罪」があるのでしたら、解放されて自由になることを祈り求めていきたいと思えます。そうするなら名目においても実態においても神さまの前に、「生きてる歩み方」という風に見なしていただけます。さらに黙示録を見ていきましょう。

3:2 目をさましなさい。そして死にかけているほかの人たちを力づけなさい。わたしは、あなたの行ないが、わたしの神の御

『サルデス(プロテスタント)の教会』は御国が危ない?! (2) E3

前に全うされたとは見ていない。

「そして死にかけているほかの人たちを力づけなさい。」とありますように、サルデス(プロテスタント)の教会は、「状態が悪い」ということを言われています。「大半が死んでいる。」と、さらに「残りは死にかけている。」と言われております。また、主は「行い」について言われています。「全うされたとは見ていない。」と。ここで、「信仰」のことは言われていません。今回の今まで見た箇所もそうでしたが、「信仰」については言われておりません。けれども「行い」について言われています。つまり「行い」が問題である。」ということの主は語っているのです。そうです。主の前に「全うされていない。」ということですので、「行い」に関して空白の部分がある、ということと言われておりますので、その所を満たしていきたいと思えます。

3:3 だから、あなたがどのように受け、また聞いたのかを思い出しなさい。それを堅く守り、また悔い改めなさい。もし、目をさまさなければ、わたしは盗人のように来る。あなたには、わたしがいつあなたのところに来るか、決してわからない。

「それを堅く守り、」とありますように…みことばをきちんと守っていきたく思います。そして「盗人のように来る。」ということばにもひとつの語りかけがあります。「盗人」とは、「盗む」ことに通じます。ちなみに「盗む」とは、窃盗の他に、「みことばを盗む」という意味合いがあります。さらに「あなたには、わたしがいつあなたのところに来るか、決してわからない。」ということが言われています。つまり言わんとしていることは…「再臨の教理が盗まれてしまう」ということでもあります。そして「目をさまさなければ」ともありますので、「インチキの教理」を持ってくる人に対して、目を覚ましていきたいと思えます。

3:4 しかし、サルデスには、その衣を汚さなかった者が幾人かいる。彼らは白い衣を着て、わたしとともに歩む。彼らはそれらにふさわしい者だからである。

ここで、「幾人」ということばが出てきます。ちなみにマタイの福音書には「いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。」(7章14節)ということが書かれています。そして「幾人」と「まれ」ということばには、同じギリシャ原語が使われています。つまり、「幾人＝まれ」ということでもあります。ですから私たちも、「幾人」とか「まれ」に入るために「白い衣(義の衣)」を追い求めていきたいと思えます。

3:5 勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表わす。

「勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。」とありますように、こちらの箇所でも、「白い衣」ということばが出てきます。

「勝利を得る者」とありますので、私たちは「罪」や「不義」に勝利をして、ぜひ、「白い衣」を着たいと思えます。そのことはそのまま「いのちの書」に名が記されることに直結するからです。けれどもここでプロテスタントの問題点について言われています。それは「衣」を汚してしまうことです。すなわち「不義」に入ってしまった、ということでもあります。

また、「彼の名をいのちの書から消すようなことは決してしない。」ということが言われています。しかし、このことは裏返して言うなら、「正しくない人は、『いのちの書』から名前が消される」ということを暗示しているように思えます。参考までですが、「いのちの書」から名前が消されてしまうことに関連して出エジプト記には、「今、もし、彼らの罪をお赦しくださるものなら。しかし、もしも、かないませんなら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください。」(32章32節)とあります。また、「わたしは彼の名をわたしの父の御前と御使いたちの前で言い表わす。」ということも言われておりますが、しかしその反面、「しかし、わたしを人の前で知らないと言う者は、神の御使いたちの前で知らないと言われます。」(ルカの福音書12章9節)ということばもありますので、人の前でイエス・キリストを否定する人も、「いのちの書」から名前が消されてしまう可能性がありますので気を付けていきたいと思えます。

最後に、「全世界に来ようとしている試練の時」、すなわち「艱難時代」を乗り切るにはどうすれば良いのでしょうか？それは「成功者」を模範とすることではないかと思えます。そうです。イエス・キリストをはじめとする、かつての12弟子のように全てに従う歩みに徹することではないかと思えます。

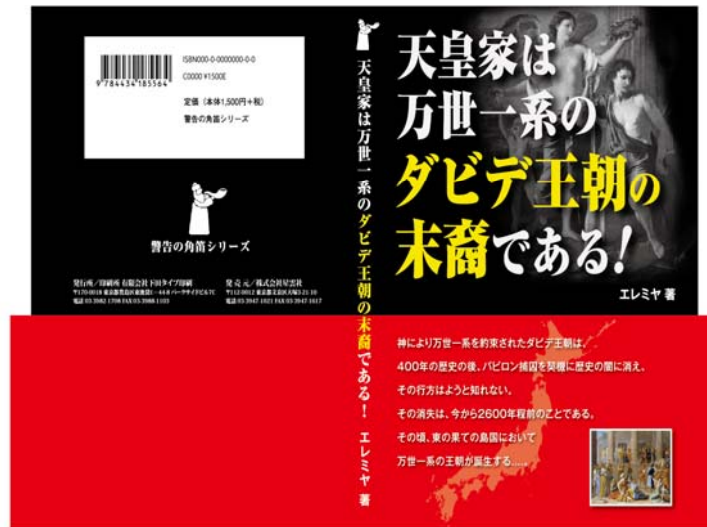
以上のことをエレミヤ牧師が語られていたのですが…神さまの視点での、「サルデス(プロテスタント)の教会」に関しまして若干なりともご理解いただけましたでしょうか？余計なお世話だとは思ったのですが…しかし私自身も、「サルデス(プロテスタント)」の一人として、このことは決して他人事ではなく、また、非常に大事なことだと思えましたので紹介させていただきました。いつも大切なことを語ってくださる神さまに感謝いたします。



「白い衣(義の衣)」を着用して、のちに「誉れ」を受ける

お知らせコーナー

●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



● 定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。

● 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255

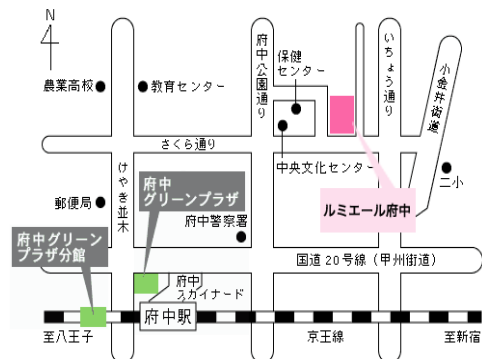
● mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30
午後 14:00-16:00

場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
(tel:042-360-3311)

1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、
「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>